

- 対象地域
広島県山県郡北広島町
(西中国山地国定公園)
- 設立日:H16.11.7
- 構成員数:31人
- 全体構想作成日:H18.3.31
- 実施計画作成日:H18.10.30
(R4.3月現在)

やわたしつげんしぜんさいせいきょうぎかい

八幡湿原自然再生協議会

再生 目標

「命の環 つなげる」をキャッチフレーズに、牧草地造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系を再生する。

【事務局】

730-8511
広島市中区基町10-52
広島県自然環境課
野生生物グループ内
電話:082-513-2933



本地域は、広島県の北西部に位置し、1,000m級の山に囲まれた標高800mの盆地です。また、ヌマガヤーマザミ群集に代表される中間湿原が点在し、自生のものとしては貴重なカキツバタが生育しています。

しかし、牧場化に伴う排水施設や道路の整備が原因と思われる湿原の乾燥化により、周辺部からアカマツやイヌツゲ等の木本類が侵入し、希少種の生育環境が悪化しています。このため、自然生態系の保全・再生のための計画を作成、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めています。

活動報告

八幡湿原に係る本校の取り組みについて

【報告者】 広島新庄中学・高等学校 統括教頭 平野 正

本校は、北広島町にある今年115年を迎えた中高一貫校です。14年前から中1で国天然記念物「大朝のテングシデ」、中2で国特別天然記念物「オオサンショウウオ」、中3で「八幡湿原」などを教材に、生物多様性の保全を柱とした自然科学プログラムを実施しています。2020年から希望者でのブッポウソウの研究、高校探究での北広島町の希少生物の研究もはじめました。これらの自然保護活動に加え、地域貢献、人権平和などの活動が認められ、2022年に広島新庄中学校はユネスコスクールに認定されました。今回は、八幡湿原に関わる本校の取り組み(2024年4月~8月)をご紹介します。



イワミサンショウウオの産卵調査

【4月29日】 高2探究生徒(イワミサンショウウオの研究)が八幡湿原の小型サンショウウオ観察会(西中国自然史研究会主催)に参加し、内藤順一先生(広島県野生生物保護推進委員)ご指導いただきながらイワミサンショウウオの産卵調査をしました。特別に卵を持ち帰らせていただき、研究をスタートしました。

【7月17日】 中3全員が、原竜也先生(北広島町環境生活課)とトレッキングガイドさんのご指導のもと、再生されつつある湿原の様子や八幡湿原でしか見ることができない貴重な動植物の観察をしました。

生徒から、「八幡湿原は、普段見ることのできない植物や動物がいて、面白かったです。人の手で環境を保っているところもあって、植物や動物の命の大切さやそれらを守ることの難しさを感じることができました。」などの感想が聞かれました。講座後、生徒たちは印象に残っている八幡湿原の動植物や八幡湿原への提案などについてのレポートを作成しました。これは、11月の文化祭で発表する予定です。

現在、高2探究生徒(八幡湿原とイワミサンショウウオの研究)は、産卵調査で特別に持ち帰らせて頂いた卵からふ化した幼生と先輩から引き継いだイワミサンショウウオの個体を飼育、観察しています。研究成果は11月の文化祭、2月の成果発表会で報告する予定です。まだ八幡湿原のことを知らない校内外の人に知って頂くことと自然環境を守っていく仲間になってもらうことが目的です。また育てたイワミサンショウウオは、これまでの先輩達が続けてきたように、八幡湿原に帰す予定です。



中学生のフィールドワーク